

視察調査・研修会等報告書

令和6年5月25日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎佳之様



議員氏名(島 朋幸)

研修・視察年月日	令和6年5月23日
研修会場・視察先	気象庁
研修名・視察目的	気象庁視察①「地球温暖化と異常気象について」 ②「地域の気象防災対策の推進について」
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	気象庁総務部企画課地域防災企画室室長 [REDACTED] 気象庁総務部総務課広報室室長 [REDACTED] 気象庁気象防災監 [REDACTED]
参加議員(同行者)	橋本守行議員、小林英恵議員、高橋栄議員、細野大樹議員
調査概要	ゼロカーボン議員連盟による視察として地域の気象防災対策を中心にご説明いただくとともに、気象庁内の視察を行った。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	<p>気象庁においても、避難指示の発令等、防災の最前線に立つ市町村に対し、既存の防災気象情報や危険度分布等の新たな情報を緊急時の防災対応判断に一層「理解・活用」できるよう、平時からの取り組みを推進していた。</p> <p>その中でも、気象台との連携や、気象防災アドバイザーの自治体における活用などが、気象庁として進めている地域防災支援業務であるということであった。</p> <p>気象防災アドバイザーについては、小山市においては令和4年度において、講師として迎え、気象状況における災害発生メカニズム及び気象の危険予測を学び、事前行動やリスク回避ができるよう、市職員向けに気象防災研修を開催していたが、気象災害が激甚化している現状を鑑みれば、より恒常的な任用等も、将来的には検討すべきではないかと感じた。</p>

視察調査・研修会等報告書

令和6年5月25日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之様



議員氏名(島 朋幸)

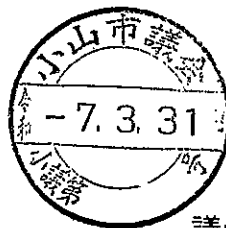
研修・視察年月日	令和6年5月24日
研修会場・視察先	衆議院第二議員会館
研修名・視察目的	環境省レク「脱炭素先行地域をはじめとする地域脱炭素に関する取り組みについて」
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	肝舘証大臣官房地域脱炭素事業推進課課長補佐 XXXXXXXXXX 環境省
参加議員(同行者)	橋本守行議員、小林英恵議員、高橋栄議員、細野大樹議員
調査概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域脱炭素における環境省の支援策 ・脱炭素先行地域について ・先進性・モデル性の類型
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	<p>小山市においてもゼロカーボン&ネイチャーポジティブ宣言が行われ、いくつかの取り組みが行われているが、環境省側にご説明いただいた先進事例のようなものと比べると、将来性に欠けるものであるようにも感じた。脱炭素効果のみではなく、それに付随する副次的な経済効果等も狙える取り組みをもっと行うべきではないだろうか。</p> <p>説明の中で、小水力発電に触れる場面があったが、調べてみると、16年ほど前に小山市においても豊徳川での小水力発電の効果測定を行う試験が行われていた。</p> <p>その結果、採算が取れるのは数十年かかるということで断念されていたが、環境省側に伺ったところ、技術の発展に伴い発電効率も向上しているということで、場合によっては再考の余地もあるのではないかと思います。</p>

視察調査・研修会等報告書

令和6年10月11日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎佳之様



議員氏名(島 朋幸)

研修・視察年月日	令和6年10月9日～令和6年10月10日
研修会場・視察先	トーサイクラシックホール岩手
研修名・視察目的	第19回 全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	なし
調査概要	地方議会において投票率の低下や、無投票当選の増加など、議員のなり手不足が深刻化している中で、地方自治法の改正を踏まえ、女性や若者など多様な人材の議会への参画を進めていく重要性についてや、積極的な議会改革の必要性、住民の理解の醸成、および将来の地方自治を担っていく子どもたちに対する主権者教育がどうあるべきか等を論じるセミナーであった。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	まずもって、そもそも講座で配布された冊子の「全国の主権者教育の取り組み事例一覧」において、小山市議会での取り組みが掲載されていない。同テーマの一覧を事務局側がどう把握したのかはわからないが、その調査時点でネット等に見当たらなかったということであれば、市民の理解醸成云々の前に最低限の広報が足りていないのではないかと率直に言って感じてしまった。 コーディネーターの井柳先生に関しては、専門家ということで現状の課題等が簡潔にまとまっていた。 パネリストについては、土山氏の理想論は結構であるが、何か「若さ」や

視察調査・研修会等報告書

「学生」に期待を持ちすぎているのではないだろうか、若者世代の当事者として率直に思った。

越智氏については、学生受けのしそうな主権者教育の取り組みを行っており、参考にできる点があるのではないかと思った一方、なかなかハードルの高い(それこそファシリテーターを雇わなければ)ものではないかとも感じた。

全体的に、相互に関係のある団体やジャーナリストで講演自体が構成されていて、なにかステルスマーケティングのような雰囲気すらあったように思える。その点は少し違和感を覚えた。

「議会による主権者教育はやめるべき」という土山氏の主張に対して、ではどこでやればよいのかと井柳氏が疑問を呈したことに対する答えについても、土山氏は話題が逸れており、回答になっていないのではないかという印象。

渡辺氏の「なぜ新聞社が主権者教育をするか」ということについて「将来の読者層の獲得」といつてしまっていたのは、痛快であった。

「自分の意見で政治が変わるかもしれない」という感覚を持たせるためには、主権者教育のやり方自体がどうこうという話もあるが、やはり議員側のレスポンスも必要であると思った。

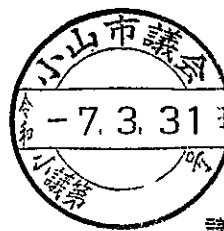
私自身、市議会では学生と一番年齢の近い議員であることから、日々それは心掛けているが、より一層意識していかなければならないであろう。

視察調査・研修会等報告書

令和7年1月21日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之様



議員氏名(島 朋幸)

研修・視察年月日	令和7年1月14日
研修会場・視察先	愛知県 名古屋市
研修名・視察目的	ナゴヤ・スクール・イノベーション事業について
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	名古屋市教育委員会事務局 新しい学校づくり推進課 首席指導主事 ████████ 課長補佐 ████████
参加議員(同行者)	小林英恵議員、橋本守行議員、渡辺一男議員、嶋田積男議員、細野大樹議員
調査概要	<p>名古屋市教育委員会は、2019 年度より「ナゴヤ・スクール・イノベーション事業」を推進している。本事業は、子ども一人ひとりにとっての「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を目指すものである。</p> <p>中心となる理念は「ナゴヤ学びのコンパス」といい、2023 年度に策定された。これは、子どもたちが自分らしく幸せに生きる力を育むための学びの指針であり、幼児期から青年期まで一貫して「子ども中心の学び」を重視する方針を示している。</p> <p>事業の具体的な取り組みは、次の5つのプロジェクトで構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Challenge(すすめる)プロジェクト 子ども中心の学びの実現に向けた実践を推進する。 2. Collaboration(つながる)プロジェクト 複数の学校園が連携し、共通の課題に主体的に取り組むチーム実践を行う。 3. Change(かいぜん)プロジェクト 学校の既存の在り方を見直し、子どもと大人双方にとって幸せな学校づくりを目指す。 4. Creation(つくりて)プロジェクト 選抜された教員が国内外の先進事例を研究し、学校運営や授業改善に生かす。 5. Common(ひろがる)プロジェクト

視察調査・研修会等報告書

	<p>授業公開やワークショップ等を通じ、教職員の意識改革とスキル向上を図る。</p> <p>各モデル校ごとに様々な画期的な取り組みが行われている。</p>
<p>市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>それぞれのモデル校が、まさに革新的な教育方法を取り入れており、中でも山吹小学校においては今注目の「イエナプラン」型の教育を取り入れているということで、異なる学年の生徒が混じり合い、子どもたちが自らのペースで、自らの興味・関心や能力、進度に応じて、自立して学んでいた。学習スペースすらも子どもたちが作り出すという空間は、とても画期的であった。</p> <p>しかし、そのような教育体制を実現するには、紆余曲折があったようで、どの自治体にでも真似できるものではないということは、説明中におっしゃっていた。</p> <p>イエナプランの試験導入を早期に行うことは難しいかもしれないが、他校で行われていた、生徒の進捗度に合わせた「AIドリル」の導入や、不登校の児童向けの「メタバース教室」などは比較的少ない予算で実現ができることから、小山市でも検討すべきでないかと思う。</p> <p>私自身も、類似事例を学び、小山市に適切なものがないか、模索してみたい。特にメタバース教室については「アルカディア」にかわる、もしくはその補助となる重要な居場所となるのではないかと、期待できる。</p>

視察調査・研修会等報告書

令和7年1月21日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之様



議員氏名(島 朋幸)

研修・視察年月日	令和7年1月15日
研修会場・視察先	岐阜県 関ヶ原町
研修名・視察目的	岐阜関ヶ原古戦場記念館について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	企画課 課長 [REDACTED]
参加議員(同行者)	小林英恵議員、橋本守行議員、渡辺一男議員、嶋田積男議員、細野大樹議員
調査概要	<p>岐阜関ヶ原古戦場記念館は、岐阜県不破郡関ヶ原町に位置する体験型施設で、1600年(慶長5年)に起こった「関ヶ原の戦い」をテーマにしている。</p> <p>1階はエントランス・ロビー、グラウンド・ビジョン、シアターで構成。ロビーは開放的で、グラウンド・ビジョンは床スクリーンで戦場を再現。シアターは風や音で戦闘を体感させる巨大スクリーンがあり、先端技術によって4DXのようなかたちで当時の戦場を体感できる。</p> <p>2階は常設展示室で、武具や史料を展示し、戦いの背景を解説する。体験型の設備も多くあり、幅広い年齢の興味関心を引くための工夫がなされている。</p> <p>3階・4階はセミナー室、機械室である。</p> <p>5階は展望室である。古戦場全体を見渡し、地形を把握できる。</p> <p>隣接エリアには売店とカフェ「伊吹庵」がある。グッズ販売と戦国風メニューを提供する。</p>

視察調査・研修会等報告書

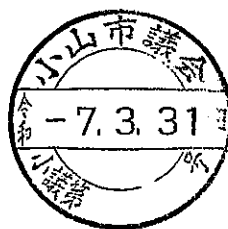
<p>市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>小山市においても博物館が新設されるにあたって、同記念館の姿勢は見習うべきと事が多いと感じた。</p> <p>先端技術の利用(4D体験やVR体験など)から、実際に刀や鎧を身につけることのできるコーナーなど、子どもたちだけでなく、歴史に関心の薄い層にも興味を持ってもらえるような工夫がなされた展示を入口に、勿論、詳細な歴史を学ぶことのできるコーナーもあり、誰もが楽しめる記念館であった。また、教育やまちづくりともしっかりと連携が行われていた。</p> <p>今の時代、「静」の展示のみでは、幅広い年代層の来館やリピーター、市外からの来館は残念ながら望むことはできないだろう。</p> <p>小山市が新設する博物館においても、体験型の設備や、ある程度の「目玉」となる常設展示を構え、最終的にはまちづくりの活性化にもつながるような副次的効果をうみだせるだけの公共施設となることを期待したい。(大規模な設備は難しいかもしれないが、現在でも定期的に甲冑の着用体験などは行っていることから、それを活かすことなども良いのではないかと考える)</p> <p>また、指定された講座を受講した「せきがはら史跡ガイド」によるガイドツアーも行われているということで、小山市でも同様の仕組みを導入することで、観光の充実と地域の活性化に繋がるのではないだろうか。</p>
---	---

視察調査・研修会等報告書

令和7年1月21日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎佳之様



議員氏名(島 朋幸)

研修・視察年月日	令和7年1月16日
研修会場・視察先	愛知県 安城市
研修名・視察目的	アグリライフ支援センター事業について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	産業部長 [REDACTED] 農務課長 [REDACTED] アグリライフ支援センター所長 [REDACTED]
参加議員(同行者)	小林英恵議員、橋本守行議員、渡辺一男議員、嶋田積男議員、細野大樹議員
調査概要	<p>安城市アグリライフ支援センターは、平成20年3月に策定した「安城アグリライフ構想」を総合的に推進する拠点として設置された。</p> <p>農業未経験・初心者に農業を身近に感じてもらい、農を楽しむ豊かな生活を実現するためのきっかけとなるよう、市民農園やベランダ等で安全・安心な食料を生産できる基礎知識と基礎技術を身につけてもらうのも狙いの一つである。</p> <p>将来的には、安城農業の担い手・後継者や市民農園でアドバイスができるリーダーを育成し、農ある豊かな地域社会づくりに貢献してもらうことを目指している。</p> <p>敷地面積は3567㎡で、そのうち実習農園は2576㎡。 30区画で1区画30㎡。</p>

視察調査・研修会等報告書

<p>市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>地元 JA とも連携し、良心的すぎるとも言える料金で、専門家の方が常勤講師として市民に農業を教える市民農園が開かれていた。</p> <p>小山市にも市民農園はあるが、常勤講師の配置等、参考にすべき点が多くあると考える。</p> <p>また新規の応募・リピーターともに多く、採用倍率が高い年度かつ人気のある講座であると6倍を越えるというのは、講師をはじめとした関係者のサポートが行き届いているあらわれであるだろう。</p> <p>田園環境都市を謳う当市でも、そういった施策にもより一層、力を入れるべきではないだろうか。</p>
---	---

視察調査・研修会等報告書

令和7年3月31日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之様



議員氏名(島 朋幸)

研修・視察年月日	令和7年3月25日
研修会場・視察先	東京都豊島区 としま区民センター
研修名・視察目的	廣瀬行政研究所セミナー
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	なし
調査概要	<p>無所属の兵庫県議会議員→尼崎市市長→兵庫県知事選候補者という来歴を辿ってきた稲村和美氏によるセミナー。</p> <p>議員・執行部、両側の視点からの「良い質問」をご教授いただいた。</p>
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	<p>講師の稲村和美氏は、先の兵庫県知事選において、現職の齋藤知事と誹謗中傷やデマ、新興政党の思惑も絡みあう異例の選挙戦を戦った候補者である。</p> <p>まさに「ポスト真実」の時代に直面した講師による一般質問のノウハウの講義ということで、ぜひ参考にしたいと聴講した。</p> <p>無所属・一人会派の県議会議員から、尼崎市市長、兵庫県知事の最有力対立候補となっただけあり、立ち回りや思考も独特で興味深いものであった。</p> <p>クローズドなセミナーであることから、お話しして下さった内容もあつ</p>

視察調査・研修会等報告書

たため、なかなかこのような報告書に記載できることが多くはないが、中でも反対意見が多い議論について扱わず、誰もが大きく反対しないようなニッチなテーマを選ぶべきという観点は面白かった。政策実現型としては理にかなった選択であると思う。しかし「変わらないとわかっているにもかかわらず主張する大切さ」についても同時に述べておられた。その狭間での戦い方は参考にしたい。

議員を経験したうえで首長になられたため、首長としての議員の質問に対する本音というものもご教授いただけたのは貴重であった(本市において同様であるかはともかく)

職員が担当業務についての専門家であることは間違いないのだから、こちらがわからないことは「わからない」と正直に言うということが重要であるとおっしゃっていた。私自身もそれは意識しているが、やはり一期目の特権でもあると思うので、先生の述べられたように積極的に教を乞うていきたい。

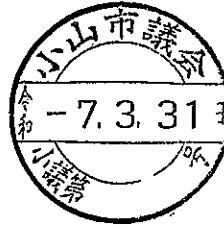
先生がおっしゃっていた『「なにも知らない人」の立場に立って仕事をする』こと、勉強しながらも、行政に染まらない感覚を大切にするという点は今後も意識していきたい。とはいえ「染まらない感覚」を維持することと「理解すること」は別であるとも付け加えられていたため、精進していきたいと思う。

視察調査・研修会等報告書

令和7年3月31日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎佳之様



議員氏名(島 朋幸)

研修・視察年月日	令和7年3月26日
研修会場・視察先	東京都新宿区 リファレンス西新宿
研修名・視察目的	地方議員研究会研修会
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	なし
調査概要	<p>「自治体病院関連質問で地域の医療を守る特別研修」</p> <p>講師:城西大学経営学部教授 伊関友伸</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指摘するポイント多数の資料の見方 ・各自治体の加算取得状況の開設 ・DPCの理解と収益改善 ・市長が激怒したある病院のDCPの状況 ・参加者がセミナーを受けてした質問事例の紹介 ・職員体制の充実と各地の医師確保策 ・診療報酬改定の最新版の理解 ・厚生労働省資料から学ぶ地域包括医療体制 ・時代遅れの指定管理者制度で大量退職の悲劇 ・総務省事業で無料でアドバイザー派遣が可能 ・不勉強によって病院機能が崩壊 ・人口減少社会での生き残り策

視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し
どのように参考になるか、
所感等

小山市においては、平成 25 年に小山市民病院が地独化され、「新小山市民病院」となって以降、経営状況の改善が進み、今では全国規模でも異例なほどの黒字となっている。しかし、歯科口腔外科および新棟の建設が行われることとなり、病院機能向上とともに経営状況についても注視していく必要があると考える。

前述の通り、地独化されているため、議会が直接の介入はできないが、中期目標等を定めるにあたっての見識として、および私自身が「新小山市民病院評価委員会」の委員であることから、本講座を受講した。

特に「2035 年以降の自治体は深刻な医療福祉人材不足に直面する」という講師からの警鐘は、まさにこれからの課題として重くのしかかってくるものであると思う。将来的な医療介護人材不足の長期推計を行うことが重要であるということ再認識した。

また、看護人材の不足に対して自治体が講じる対策について、看護学生への奨学金の貸与額増が重要であるという話であった。小山市においては、他の奨学金制度との併用が不可となったが、現状を踏まえれば再考すべき点ではないかと考える。

本講座で得た知見を、市政ならびに委員会でも活かしていきたい。余談になるが、ホスピス最大手の医心館の不正請求問題について、万が一、当該企業が倒産ということになれば、医療難民が大量に出るという本音を聞くことができたのは興味深かった。有識者の現実を踏まえた上での危惧であった。

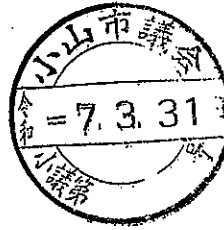
また、ひのえうまで実際に出生数が減っているグラフを改めて目の当たりにすると「迷信」の影響力というのが当時絶大であったということ再認識すると同時に、現在の SNS 等で、デマやスピリチュアル的な情報が従来よりも広まりやすい社会において、「昔だったから」と馬鹿にできないほどの影響を来年のひのえうまの年でも受けるのではないだろうかとも考えるきっかけとなった。

視察調査・研修会等報告書

令和7年3月31日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之様



議員氏名(島 朋幸)

研修・視察年月日	令和7年3月27日
研修会場・視察先	東京都新宿区 リファレンス西新宿
研修名・視察目的	地方議員研究会研修会
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	なし
調査概要	<p>「『地域の足』が無くなる？交通空白解消セミナー」 講師：早稲田大学 スマート社会技術融合研究機構研究員准教授 井原雄人氏</p> <p>【ライドシェアの基礎と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府の交通空白解消本部の議論をおさえる ・日本版ライドシェアの全国展開？ ・公共ライドシェア、日本版ライドシェア、乗合タクシーコミュニティバス、デマンド運行の定義と役割 ・地域の足対策と観光の足対策 <p>【交通崩壊の解決策と各地の事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通崩壊は既に始まっている ・ローカル鉄道の再構築に関する仕組みと支援例 ・交通税導入の検討と財源策 ・自動運転ロードマップ ・DXGX 新しいモビリティサービス

視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し
どのように参考になるか、
所感等

想定

交通利便性が「高い」とはとても言いようのない小山市において、「ライドシェア」および「交通崩壊の解決策」について学ぶことは重要だと考え、当該講座を受講した。

小山市では AI デマンドバスが導入されるなど、少子高齢化社会における課題への対応を進めているが、より思い切った施策も必要だと考える。

実際、公共交通の専門家である講師いわく AI デマンド交通について「ある程度の利便性向上を見込めるが、新たに利用者が増えたり収支が改善するほどのものではない」とのことであった。特に大都市でもない限り、AI によるルート選択のメリットはほぼないに等しいということであったため、小山市においても効果の実証をしっかりと行うことが必要であるのではないかと考える。また AI は学習を積み重ね最適化されていくものであるため、導入初期は経験の豊富なドライバーの選択するルートと異なる可能性があるが、その際の修正も含めて学習であるため、その点を踏まえた上で評価を行うべきということであった。

小山市のデマンドバスについては講師による分類では「地域お迎え型」というもので、デマンド交通の中では有効性の高い分類であるとのことであったが、利便性を追求するのであれば「区域運行型」が望ましい。しかし、自治体の負担も増加するためデメリットも生じるとのことで、慎重に検討する必要があると感じた。

また、コロナ禍における外出自粛による高齢者の体力低下と、それに伴う公共交通需要の増加についても触れられた。現状においても課題であると同時に、類似した感染症が今後起こった場合のために「平時」以外の~~装~~もしておく必要があるだろう。

個人的に最も関心のある自動運転についても、この先の展望を含め、伺うことができた。レベル5への道のりはまだまだ遠いということを再認識したが、レベル4については具体的なスケジュールが見えていることは希望であろう。同講義中には、堺町の話題があがった。地理的にも近く、人口規模、予算規模も小山市より少ないが、自動運転の先端的なバスを導入していることについて、経済効果ももたらしているというのが講師の主張であった。

自動運転の導入については、多額の経費がかかることから需要とのバランス、そして「乗らない人」の受容、乗車経験がある方(面白いことに一番自動運転の受容性が高いのは、乗ったこともすれ違ったこともない層であり、実際に乗車経験があると危険性が印象に残りやすいとのこと)の受容性を高める必要があるとのことであった。

いずれにせよ、小山市は「田園環境都市」を謳い、環境保護に力を入れているが、一般的な環境保護政策で金は稼げなければ、市民の利便性

視察調査・研修会等報告書

	<p>は向上しない。であれば、堺町のように先進的な取り組みを行って副次的な経済効果を期待するという選択肢も悪くないのではないかと思う。寧ろ、主目的と副次目的が逆で良い気もするくらいではあるが。</p>
--	--